

いつもの町の文化財

中部小・6・清水 悠琉

みなさんは奈良時代にできた三河国分尼寺のことを知っていますか？奈良時代とは、約千三百年前に始まった時代で国分寺・国分尼寺などの寺院が全国各地に建てられ、仏教文化が大きく発展した時代です。現在その国分寺や、国分尼寺のほとんどは、未だに跡地となっています。しかし、ぼくの住む豊川市の三河国分尼寺は一部が再建され、三河国分尼寺跡史跡公園として、市民に親しまれています。果たして三河国分尼寺はどのように復元されたのでしょうか。

三河国分尼寺は中門や回廊の一部、金堂が復元されています。中門は回廊とつながっていて、建物をつなぐ役割がありました。回廊とは今でいう廊下のことです。普通だと廊下が一つの「単廊」という造りが多かったそうです。しかし、この国分尼寺は当時では珍しく廊下が二つある「複廊」という造りで復元にはほかの復元より大幅に時間がかかったそうです。複廊を実際に歩いてみたところ自分の家や学校とは違い廊下が分かれていてとても不思議でした。

金堂は、基壇という土台を復元しました。この金堂はとても大きく奈良の唐招提寺金堂に匹敵する規模で復元が難しく完全には復元されませんでした。

三河国分尼寺跡公園の近くには資料館があり、三河国分寺・国分尼寺の発掘調査の出土品の展示や三河国分寺などの歴史講座も開かれています。三河国分寺・国分尼寺跡からはどのようなものが出土したのでしょうか。

まず、「鬼瓦」です。鬼瓦には魔除けと雨漏り防止の役割があります。恐ろしい鬼の面をした鬼瓦は、昔から魔除けや厄除けとして、建物を守るために設置されていたことからはじまっています。実際に見てみるところ鬼には見えなくても不思議な形をしていました。ちなみに鬼瓦にはさまざまなデザインがあり鬼瓦という名前ですから、鬼を思い浮かべると思いますがほかにも鬼瓦には動物の形や葉っぱの模様などさまざまらしいです。

次に「軒丸瓦・軒平瓦」です。これは三河国分寺・国分尼寺の出土品であり、どちらも装飾的な役割で、屋根の軒先を飾ったらしいです。軒丸瓦には蓮華文などの文様がよく使われたらしいです。蓮華文は奈良時代にとっても合っていて、綺麗な模様でした。

そしてもう一つは羊型硯といって三河国分寺跡の出土品です。平城京跡出土品とよく作りが似ていて、全国的にもまだ出土例が少ない貴重なものです。国府で使用されたものだと考えられていて国司の愛用品という考えも出ています。羊型硯は現代ではあまり見かけない形で、羊の顔のようなものが描かれていました。自分は羊型硯があったら使ってみたいと思います。

またガイダンス室があり三河国分尼寺をはじめ国分寺・国府跡などの古代三河の中心地であった周辺地域の様子を映像で紹介していて歴史講座や体験教室の会場としても利用されています。このように資料館では三河国分尼寺だけでなく、国分寺や国府跡などについても知ることができます。参考になるのでぜひ行ってみてください。

では、全国でも数少ない国分尼寺を復元した人はどのような思いで復

元に取り組んだのでしょうか。

まず復元を行った人は後世に伝えるための思いを持っていました。

国分尼寺が地域の歴史と深く結びついており、国分尼寺は仏教に深く関係があるものなので、後世に伝えるための思いを持っていました。

次に復元した人は、平和と繁栄への思いを持っていました。

聖武天皇が国分寺・国分尼寺を建設した理由は国家の安全と国民の幸福を願うためであり復元された三河国分尼寺はその思いを受け継いで復元したそうです。

このように復元した人は、後世につたえるためや平和と繁栄のことを思いました。今はまだ殺人事件や、戦争が続いている国もあります。まだ平和ではないけれど、私たちも平和と繁栄が続くようにするため、聖武天皇や復元した人の思いを受け継いでいくことが大切です。そして三河国分尼寺などの地域の文化のことを思いまた後世へ後世へと伝えていけば、いつも住んでいるいつもの町の文化財は永遠に守られるはずですよ。